

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	〒501-3202 岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成21年9月12日	評価結果市町村受理日	平成21年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200535&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<input type="checkbox"/> 地域との繋がり <input type="checkbox"/> 職員の介護力 <input type="checkbox"/> 入居者様に対する接遇
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは1ユニットであるが、職員の数は多く、支援が手厚く行われ、安全であることと身体拘束をしないための配慮がきめ細かい。管理者は「家庭的な暮らしの継続」を大切にされた支援の実践に取り組み、利用者の希望を確認しながらそれまでしてきた包丁の使用や利用者自身の洗濯機の使用を支援している。ホームに隣接する地域交流センターは婦人会の人々が世話し、地域住民が毎日利用するが、利用者も喫茶やカラオケに出かけたり行事に招かれ住民と交流している。地元中学と交流し野菜作りの「みのり学級」から野菜が届いたり、文化祭に利用者全員で中学を訪問するなど頻回の交流が続いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気や和気藹々後していると思う 理念をいつも心がけて実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を事業所理念としている。家庭的な雰囲気や利用者への気持ちや思いに寄り添い、きめ細かく対応するための気遣いを心がけている。職員の名札の裏に理念を書き、日々のケアやミーティング等で確認し、意識づけてい	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元中学校との関わりが多くある 併設されている地域交流センターを時々利用させてもらっている 行事等には招待し、招待され、交流が持たれている クリスマス会・焼き芋大会・文化祭など	地域交流センターは地域行事の集会所として交流に活用しており、利用者も喫茶や行事等参加し楽しんでいる。地域中学校とは、「みのりの学級」から野菜が届いたり、文化祭に利用者が参加する等頻回な交流が継続している。自治会の敬老会に招待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小中学校とも交流を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで開催され、民生委員、自治会長、市職員、家族と参加をしていただき、予定報告等、地元行事への参加希望等色々と意見交換ができています 会議での意見はできるだけ早くサービスに反映できるように努めている	同一敷地内の他事業所と合同で開催してきたが、今後は単独での開催を検討している。家族、民生委員、市職員、施設長、管理者、ケアマネジャーが参加し、事業所からの報告、家族の行事への参加依頼、行政からの情報提供を行っている。	運営推進会議に参加する地域の役員に火災や災害時、地域から協力が得られるよう働きかける取り組みも期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネが市町村と連携をとっている 困難なこと、確認事項等、細かに連携ができています	市とは管理者と介護支援専門員が窓口となり連携をとっている。介護相談員の受け入れも行っている。最近の他施設での豪雨災害事例から、ホームも土砂災害マニュアルを作成するよう指導があり、取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自宅と同じように昼間は開放をし、夜間のみ施錠を行っている 拘束をすることで良い結果が生まれることはないため、どこでも出入りが可能にしてあり、そのための見守りを重視している 職員全員で確認をしながら身体拘束をしないケアを行えるように取り組んでいる	身体拘束しない方針がある。利用開始まもなくで帰宅への気持ちが強い利用者のため活動開始の傾向を把握し、職員の勤務体制を臨時に整え対応している。1人で外へ出る場合も無理にとめず、職員が付き添って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から身体にあざ等に気をつけて発見した時は、その原因をすぐに話し合っ解決、改善に繋げていっている 職員から入居者への虐待が絶対無いようにストレス解消の場も考えている		

岐阜県 グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	回覧で回り、さっと目を通す程度 日々の業務に追われて、後見人制度等について勉強する機会が持っていない 該当者のみが勉強し、活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネが事前面接時、入居前契約時に細かく説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族とは、近況状況を話したりしながら意見の交換はできていると思う	遠方の家族が比較的多いため面会もままならないことも有るが、電話や訪問時にホームからの連絡や報告とともに、家族からの意見を聴き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見がある時は発表し、検討してもらう 職員の意見を聞く機会を持っているが、言いづらい部分も多い	職員が意見を出す機会とし、職員が気持ちや気づき、質問を記載できる専用の「ノート」が作成されており、職員は日常から自由に記載できている。管理者は、職員がストレスにならないうちに対応したり、ミーティングで取り上げたりして運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	融通をきかせてもらっている 代表者とは話す機会も多く、いろんな要望には耳を傾けていただいている 向上心をもって働ける 職員の評価をしてもらいたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間外に勉強会を開催 研修を受ける機会の確保はケアマネには多いが、職員にはあまりないと思う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は現在はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎月のミーティングにて確認したりしている 初期の傾聴は、やはりその場になれるためにも大切なことなので、入居時には特に関わる時間を多く作り、世間話から耳を傾け、気配りしながら本人が職員を信頼し、安心できるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のミーティングにて確認したりしている 家族には初期に不安、悩みを聞き、その情報を共有することで努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネを中心として、事前にミーティングなどを開いてどういった支援がその人には必要か考えています 訪問美容、訪問歯科などの説明も行い、必要な方には利用をさせていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯物干し、たたみ等一緒に行っています 尊厳を大切に、暮らしを共にする関係を築こうと努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時には、入居者様の様子を話したり、記録を見ていただき、生活状況を伝えている 面会時に家族から色々話を聞いたり、たまに入居者様を連れて外出もさせていただいている できるだけ電話などで連絡を密にし、少しでも異変があれば連絡をしている 家族が職員に介護を委ねきりになっている場合もあるため、家族との関わりを多く持つようしていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外のなじみの人とは疎遠になってしまいうこともある 生活をしてきた場所が遠方の場合が多いため、馴染みの人、場所との関係継続が難しい	地域密着型以前からの利用者も多く、入居期間の経過とともに馴染みの関係が遠のく場合もおきてきている。家族が他県の場合は訪問も少なくなるため電話連絡や通信でこれまでの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろぐ時間や食事の関に気を配り、配慮している 一人一人の個性が強く、関わり合いが難しい時があるが、孤立は避け、職員が間に入りみんなが美味しく関わり合えるよう支援している 孤立しないように気をつけているが、一部に掛かりきりになっている時があり、その時は孤立している方が出てくる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方などには退所後、会いに行ったり、他事業書の迷惑にならない程度に家族と連絡を取り合うことを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念の中にある「その人らしさ」をいつも考えて支援している 入居者の思いや以降は聞くようにし、ミーティングで話し合い、実践できるように努めている 本人の希望を叶えることが困難な場合には納得していただけるように本人と話している	意思の伝達ができる利用者が多いが、難しくなった場合も、それまで把握している気持ちから職員間で検討し、その人らしくあるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターシート、サマリー等、個人記録で知り得た情報の中で努力している 初期にその情報は把握し、日々の暮らしの中で会話の中でも把握していつている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の身体に合わせて過ごし方を変えている 食事の摂取量、行動、話し方など全体的にも生活状態を把握し、介護記録等を毎回必ず目を通し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当入居者のモニタリングは行うが、他者との話し合いはケアマネに任せている 月一回のミーティング、3ヶ月に1度のモニタリング以外にも常に話し合いをして、アイデアを出し合い、現状に即した介護を行っている	担当職員から個別の情報が提供され、介護計画を作成している。計画に沿った支援を行い、毎月のミーティングやモニタリングで検討をしている。訪問の時期が合わなかった家族とは電話で報告し連携を取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録にその人の生活を記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しをしている 特に変化があった時には細かく記録をし、それを基にして、会議等で話し合うこともある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等、家族に代わって行うこともある 本人、家族の状況が変わった時には、すぐに話し合いをして解決策を見いだせるよう取り組んでいる		

岐阜県 グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケ教室等の地域資源を今以上にもっと把握して、楽しく暮らせるように支援していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、基本的には本人、家族が希望する医師に在宅から引き続きお願いしている 定期的な受診に付き添い、また、往診も行っている かかりつけ医とは、いつでも相談できるような関係が築かれている	利用者は入居前からのかかりつけ医を継続しており、現在10箇所ほどの医療機関と連携を取っている。随時の受診も家族での対応が困難な場合が多くあり、現在は職員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや体調変化の異常の早期発見に努め、医療との連携を図っている 看護師が休日の日も電話にて対応してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	時間外に見舞い、病院、家族との情報交換をし、事業所～病院を変わっても違和感なく過ごせるように病院、家族に協力を求めながら努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主に管理者、ケアマネ、看護師に任せ、契約時に医療等が必要になった場合の施設としての方針を説明している	本人や家族には、契約時に看取りはできないことを説明している。医療的管理が必要になった場合には、ケアマネジャーや医師と相談し方針を決めているが、本人や家族との意思確認書等は作成していない。	重度化した場合の方針は説明しているが、口頭で行われており、相互の話し合った内容や方針を書面に残されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し、それに従っている 応急手当などの訓練はあまりしていないので実践力を身につけているとは言い難い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている 年に1～2回は避難訓練を行っているが、まだまだ実践力は身につけていない	春と秋に2回訓練を行っており、消火器の使用法確認や避難誘導を実施している。ホーム近くに山と池があり、市からの指導を受け、土砂災害対応マニュアル作成に取り組むこととしている。	土砂災害対応マニュアルの作成と共に、地域や消防等にも相談し、広く地域や関係機関に協力依頼する等にも取り組まれたい。また、機会を捉え、避難訓練を行い、どの職員も対応できるように取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、時々イライラして自分の感情が抑えられず、言葉が強くなってしまっていることがある プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている	プライバシーを守るためには言葉の力が大きいことを施設内研修において認識を深めている。また、支援時の動作にも現れないようミーティングで話し合い、全職員が身につくよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞くことを心がけている できるだけその人の思い、自己決定が口に出せるような言葉かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつも本人優先に考えている 心がえてはいるが、特に入浴などはどうしても職員の都合の良い時間になってしまうことが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	トイレ後の衣服の乱れ等には気を配っている 入浴後の髪型も本人の希望を聞きながら時々変化をつけている 入浴準備時には本人と一緒に着る服を選びながら準備をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがあるので、その点は気をつけている できる範囲で調理等も一緒に行っている 野菜の皮むきなど、できることはお願いして楽しく協力しながら支援している 給食・弁当・配色等の購入は一切無く、毎日手作りで職員も同じ物を味わいながら食事ができている	利用者の好みを把握し献立をたて、季節の野菜を取り入れた食事を作っている。「家庭的」であることを大切に、包丁もできる限り継続し使えるよう支援している。職員と共に同じ食事を楽しい会話を交え食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量は記録し、一人一人の今の状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして口腔ケアを行っている 週1回の歯科訪問での口腔ケアも定期的に行っている		

岐阜県 グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターン、習慣を把握し、早めの声かけを心がけている	職員は担当者制であるため、一人ひとりの習慣やしぐさから排泄パターンを把握しており、それとなく声かけし、プライバシーへの配慮も行いながら誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	重傷な方は主治医より薬を処方してもらい、医師の指示で看護師が調整をしている あまり薬ばかりに頼らず野菜、果物等での自然排泄を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、特に汗をかいた時、汚染があった時等、臨機応変に対応しているが、職員の都合で時間が決まってしまうことが多い	家庭用浴槽で、午前11時から午後2時半頃まで、1対1で入浴を支援している。隔日の入浴予定であるが、毎日準備するため、随時の清身支援も行っている。季節により入浴時間帯の希望が変更するため、希望に合わせて職員の勤務体制を調整し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	管理者を中心に職員間で話し合いを行っている 個人の居室があるため、疲れた時や眠い時にはやすんでいただくよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心にし、服薬管理を行い、職員一人一人が責任を持って服用・確認をしている 症状の変化等は医療機関に情報提供を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどの方が外出を望まれるが、今はインフルエンザの影響で外出の機会がないため、室内でのレクレーションに努めている その人に合った役割、楽しみを見つけ、職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザの影響で近隣の散歩以外、外出を控えている 家族との外出時などには本人の希望が叶えられるよう協力をしていただいている	本年はインフルエンザが流行しており、県のグループホーム協議会与相談、人ごみへの外出はひかえる方針としている。利用者の身体能力の低下防止や気分転換のため、事業所近辺での散歩は行うとして実施している。	

岐阜県 グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自分では所持、管理することができないため、事務所で一括管理をしている 外出時などには自分の財布でお金を持っていただき、自分で買い物ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる限り本人の希望を叶えている 家族の協力の下、手紙・電話はいつでもできるようにになっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力はしているが、特に体感温度等、個人差がかなりあるので、座る席などを考えている(外気、エアコンの風など) 季節を事業所内に取り入れ、花、カレンダーをその季節にあった物を置き、視覚的にも季節を感じてもらえるようにしている	リビングにある椅子やソファの場所に、体調や気分、相性などでそれぞれ好みの場所に座り、くつろいでいる。廊下や壁や空間に季節の花や絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファの組み合わせにより、思いの好きな場所に座っていただけるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ居室になじめるように慣れた物、好きな物を置いたり飾ったりしている 居室内では、ベッド上が一番いる時間が長いので、常に布団等を整頓し気持ちよくいられるよう心がけている	ホームからの家具の提供はなく、それぞれの家族が好みの寝具や家具を持ち込み、利用者それぞれの趣のある居室となっている。搬入された家具や調度品も多く、あたたかい雰囲気がある。掃除は日勤の職員が行い、共に行える利用者は一緒に掃除している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にはすべて手すりがあり、杖、押し車の使用にも邪魔にならないようにできるだけ物を置かないよう配慮をしている トイレ・風呂などは戸に場所名を書いたり、各居室には名前プレートをかけたりしている		